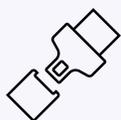


AIディスカッションペーパー第1.1版 改訂の概要

- 「金融庁AI官民フォーラム」において議論されたAI利活用の状況、AIに関連するリスクマネジメント・ガバナンスの取組事例等を基に、**AIディスカッションペーパーをアップデート**。

ポイント1：顧客向けサービスを念頭としたリスク低減の取組事例



- 顧客向けサービスを念頭にリスク低減に向けた取組みの検討が進む中、一定の共通的な目線が形成されつつある。
- ①サービス提供前の「設計と事前検証」、②サービス提供時の「顧客への適切な説明・注意喚起」、③サービス提供後の「検証・モニタリング」と、④それら全体を支える「ガバナンス」の4つの局面に分け、金融機関からの相談・照会に金融庁が対応する際に参照するものとして整理。

ポイント2：諸法令・規制の考え方



- 証券会社がシステム関連の子会社にAIシステムの開発を委託する際、非公開情報を含む顧客との会話データ等を提供するという考え方を提示。
- 法人関係情報の管理態勢のあり方等の論点が事業者から提示されたところ、今後、具体的なユースケースを通じた事業者団体や当局との検討により、解釈や目線の提示、業界レベルでの知見共有・プラクティス形成につなげる予定。今後生ずる他の論点についても、事業者による具体的なユースケースの特定や論点の深度ある検討、当局・事業者団体によるオープンな対応により、同様に解釈の提示やプラクティス等が進展することに期待。

ポイント3：AIの利活用の実践



- 経営トップが先導して、業務効率化や新たなビジネス創出の動きを具体的な取組みとして進めるフェーズに。健全なAIの利活用によって着実に業務プロセスの改善につなげていくことが期待される。

その他（データマネジメント、ガバナンス等）



- 質の高いデータがAIの有用性に直結するため、目的を持ったデータ整備が重要。
- アジャイルな推進体制やリスクベースの対応が有効。業界レベルでの知見共有の進展が期待される。

顧客向けサービスを念頭とするリスク低減に向けた取組事例

- 顧客向けサービスを念頭にリスク低減に向けた取組みの検討が進む中、一定の共通的な目線が形成されつつある



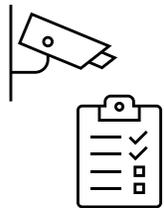
■ 設計と事前検証

- 技術的な対応
 - ーRAG*による回答範囲の制限、より高度なLLM*の選択、ファインチューニング、回答内容のフィルタリング等
- サービス設計
 - ーAI対応によるサービスと人間対応によるサービスを利用者が選択できるように
 - ー事務的な手続などからAIの活用を始め、金融取引などの中核的な業務にもAIの適用領域を広げていくアプローチ



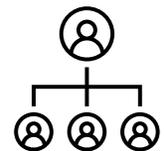
■ 顧客への適切な説明・注意喚起

- 生成AIによる回答であることや、生成AIの特性上誤りが含まれうること等について注意喚起
- 手続・取引の過程で顧客の理解を確認するステップを設け、理解が確認できない限り次に進めないように
- 回答の根拠・情報ソースの明示
- 顧客の選択により、いつでもAI対応から人間対応へ移行できるように



■ 検証・モニタリング

- AIと顧客との会話ログを保存して回答をモニタリングし、必要な場合には顧客へフォローアップの連絡
- AIが偏った勧誘等を行っていないか等を客観的な数字を用いて確認・検証
- 推奨ロジックの文書化と第三者レビューを通じたモニタリング
- 検証・モニタリングを踏まえた継続的な改善



■ ガバナンス

- 経営陣を含む全社的な体制の整備と、現場職員に至るリテラシー向上
- AIの用途等に応じたリスクベースのアプローチ
- 達成すべきゴールを明確化した上で、ライフサイクルを通じてリスクマネジメントを行うアジャイルなガバナンス

・RAG（検索拡張生成）とは、一般に、AIによるテキスト生成に外部情報の検索を組み合わせることで、回答精度を向上させる技術のことを指す。

・LLM（大規模言語モデル）とは、一般に、巨大なデータセットとディープラーニング技術を用いて構築された言語モデルのことを指す。